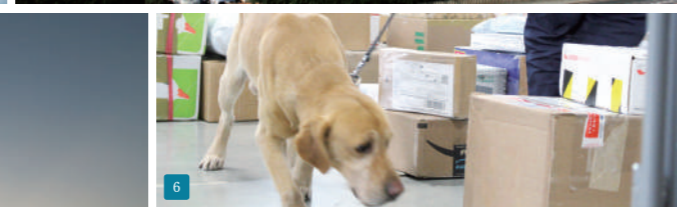
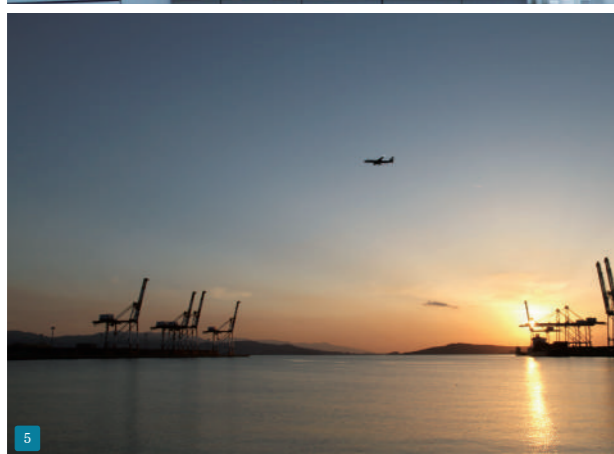


アジアとの交易の要として発展

門司税関は、アジア大陸と地理的に近距離にあり、管内の輸出入額は、ともに中国・韓国
の割合が高く、また、管内には韓国釜山港を結ぶ定期旅客船が4航路（博多、下関、厳原、
比田勝）就航しており、海港における入国者数は全国の7割近くを占めております。過去に
は地方港入港船舶や洋上取引に係る摘発実績もあり、社会悪物品等の水際取締りの面からも
非常に重要な地域を管轄しています。

また、管内には税関空港をはじめ、外国との定期旅客船が就航する開港や国際郵便物を取
り扱う外郵便など、様々な業務に対応する官署がバランスよく設置されているのも特徴の一つ
です。



1 博多港中央ふ頭 2 初代庁舎 3 旅具検査(福岡空港) 4 本関庁舎 5 博多港コンテナターミナル 6 貨物検査(福岡外郵便) 7 太刀浦コンテナターミナル

石炭の輸出から始まった

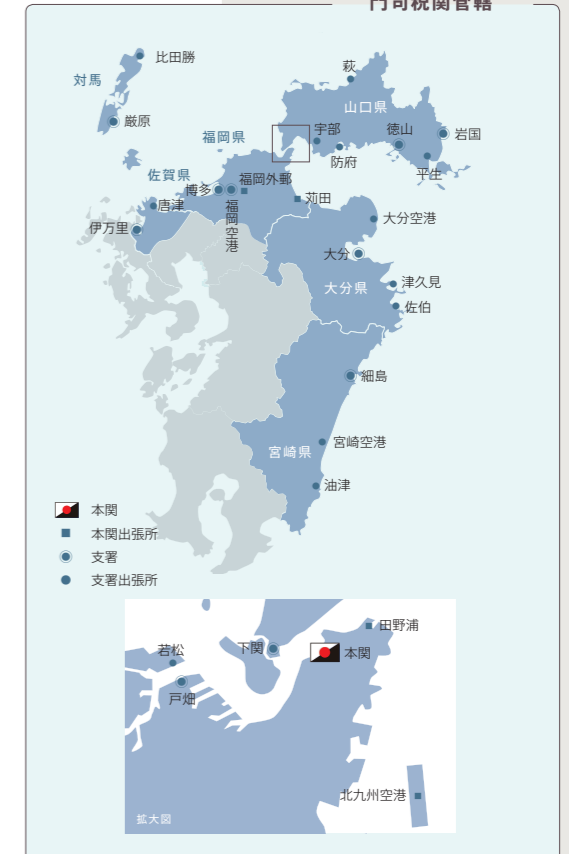
門司税関のあゆみ

門司税関の本関がある門司港一帯は、明治初期は塩田が広がる寒村で
したが、後背地に豊富な炭田を有していたこともあり、門司長崎税関出
張所が明治18(1885)年5月に設置されました。当時は築港工事前で
あり、税関業務が少なかったことから、出張所は明治20(1887)年12
月に一度廃止されましたが、明治22(1889)年7月に門司港が石炭な
どの特別輸出港の指定を受けたことで築港工事が進み、同年11月に門
司長崎税関出張所が再度設置されました。一方、門司港の対岸にある下
関港は天然の良港で、古くから交通の要衝として栄え、明治16(1883)
年12月には朝鮮貿易のための特別貿易港、明治22(1889)年7月
には特別輸出港に指定され貿易は増大しました。時を同じくして関門海峡を
隔てた2つの港が特別輸出港となったことで、両港は一体となって発展し
ていきました。明治32(1899)年7月に門司港が開港となって以降は、
官営八幡製鉄所、浅野セメント会社、明治紡績、関門製糖などの背域産
業の発達に伴い輸出入品の多様化が進み、外国貿易船の入港隻数は順調
に増加し、明治34(1901)年から3年連続で全国1位、その後も全国
2位が続き、また、輸出実績も順調に増加し、貿易額は長崎港を上回り、
明治35(1902)年に全国4位の貿易港となったこともあり、明治42
(1909)年11月5日、門司税関は長崎税関から独立しました。戦前の
門司港は大連定期航路等を中心に大陸との物流の要として、我が国の重
要港湾の一つとなり、門司税関もその確固たる地位を築きました。戦後は、
経済復興・高度経済成長を支えた北九州工業地帯等の発展に牽引される
かたちで管内各地の貿易も着実に伸展したことから、各地に税関支署が設置され、
管内はアジアを中心に環太平洋地域の人と物の玄関口として、その地歩を固めてい
ます。

— 門司港への税関設置はある女性の構想から

門司で最初の税関官署は、明治18(1885)年5月に設置された「門司長崎
税関出張所」です。実は税関の設置には、NHKの朝ドラ「あさが来た」のヒロイ
ンのモデルにもなった女性が大きく関わっています。彼女は、筑豊石炭の上海など
への輸出を目論み、輸送費がかさむ長崎港ではなく、より筑豊に近い門司港に目
をつけ、港を整備し、税関を設置する構想を描き、税関官署設置に尽力しました。
彼女の構想がなければ門司港に税関が設置されることはなかったのかもしれませ
ん。

門司税関管轄



門司税関の管轄

門司税関の管轄区域は、山口県と、九州のうち有明海に面する地域を除く福岡・佐賀の両県、大分・宮崎の両県と長崎県の壱岐・対馬と広範囲な地域に及んでおり、本関は、福岡県北九州市門司区に置かれています。管内には、外国貿易のために開かれた19の開港（関門、苅田、宇部、萩、岩国、徳山下松、三田尻中関、平生、博多、伊万里、唐津、厳原、中津、大分、佐賀関、津久見、佐伯、細島、油津）と4つの税関空港（福岡、北九州、大分、宮崎）があります。

(令和4(2022)年4月現在)